

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 11-347263

(43)Date of publication of application : 21.12.1999

(51)Int.Cl.

B26B 13/20

(21)Application number : 10-175346

(71)Applicant : KAIJIRUSHI HAMONO KAIHATSU CENTER:KK

(22)Date of filing : 09.06.1998

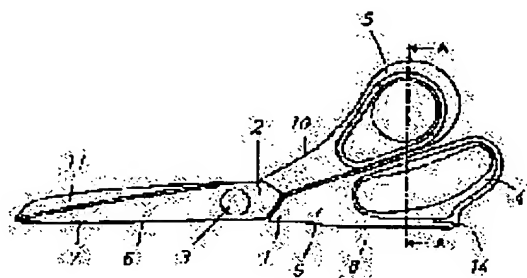
(72)Inventor : SAITO TATSUYA

(54) SCISSORS

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide a pair of scissors capable of being simply held by a hand when the scissors laid apart from the hand are used again by laying the scissors in the horizontally erected state after using them.

SOLUTION: Two blades 1 and 2 are connected rotatably around a spindle 3 to form a pair of scissors, the handle 9 of one blade 1 is provided with a first finger hook ring 4 for inserting a finger other than the thumb, and the handle 10 of the other blade 2 is provided with a second finger hook ring 5 for inserting the thumb. A support section 8 supporting the scissors in the erected state in cooperation with the ridge 7 of the blade 6 is provided on the outside face of the handle 9 of one blade 1 so that the scissors can be erected with the first finger hook ring 4 located below the second finger hook ring 5.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 09.06.1998

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number] 2906235

[Date of registration] 02.04.1999

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

Copyright (C); 1998,2003 Japan Patent Office

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平 1 1 - 3 4 7 2 6 3

(43) 公開日 平成 11 年 (1999) 12 月 21 日

(51) Int. Cl.⁶
B 2 6 B 13/20

識別記号

F I
B 2 6 B 13/20

審査請求 有 請求項の数 2 F D (全 4 頁)

(21) 出願番号 特願平 10-175346

(22) 出願日 平成 10 年 (1998) 6 月 9 日

(71) 出願人 000001454

株式会社貝印刃物開発センター
岐阜県関市小屋名 1110 番地

(72) 発明者 斎藤 達也

岐阜県関市小屋名 1110 番地 株式会社貝印
刃物開発センター内

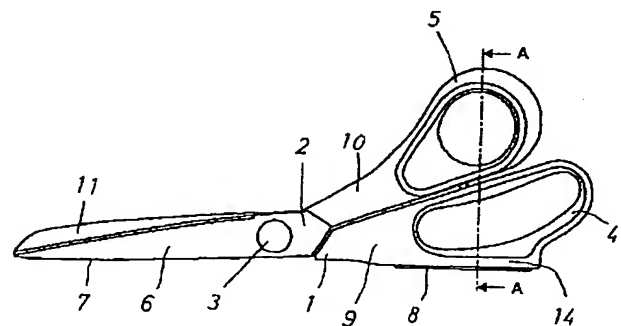
(74) 代理人 弁理士 伊藤 浩平

(54) 【発明の名称】 鋏

(57) 【要約】

【課題】 鋏を使用した後にその鋏を横にした状態で立てて置くことができるために、手から離して置いた鋏を再度使用するとき、簡単に手に持つことができる鋏を提供することを目的とする。

【解決手段】 2つの鋏身 1、2 が支軸 3 を中心に回転自在に結合されている鋏であって、一方の鋏身 1 のハンドル 9 には親指以外の指を挿入するための第一指掛環 4 が設けられ、他方の鋏身 2 のハンドル 10 には親指を挿入するための第二指掛環 5 が設けられており、鋏を横にして、第一指掛環 4 が第二指掛環 5 の下側にある状態で鋏を立てて置くことができるように、刃部 6 のミネ 7 と協働して鋏を立てた状態に支持する支持部 8 が前記一方の鋏身 1 のハンドル 9 の外側面に設けられていることを特徴とする。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 2つの鉄身（1，2）が支軸（3）を中心に回動自在に結合されている鉄であって、一方の鉄身（1）のハンドル（9）には親指以外の指を挿入するための第一指掛環4が設けられ、他方の鉄身（2）のハンドル（10）には親指を挿入するための第二指掛環（5）が設けられており、鉄を横にして、第一指掛環（4）が第二指掛環（5）の下側にある状態で鉄を立てて置くことができるように、刃部（6）のミネ（7）と協働して鉄を立てた状態に支持する支持部（8）が前記一方の鉄身（1）のハンドル（9）の外側面に設けられていることを特徴とする鉄

【請求項2】 鉄が立てた状態で置かれている作業台等の載置面に接触する支持部（8）の表面にフッ素樹脂が存在している請求項1記載の鉄

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、裁縫等で使用される鉄に関する。

【0002】

【従来の技術】2つの鉄身を支軸により回動可能に結合した鉄であって、一方の鉄身のハンドルに親指以外の指を挿入するための指掛環が設けられ、他方の鉄身のハンドルに親指を挿入するための指掛環を設け従来の鉄は、それぞれの指掛環の幅が全周に亘ってほぼ一定で、比較的小さな幅に形成されていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の鉄は上述のような構成であって指掛環の幅が比較的小さかったので、鉄を横にして置くと、鉄の片側が全面的に作業台等の載置面に接するように寝かせた状態で置かれていた。そのため、裁縫中に布を切断した後に鉄を置き、再び鉄を手にとって使用するときに、鉄は横に寝かせて置いてあるので、そのままの状態では指が作業台等の載置面に当たるので指掛環に指を通すことができない。したがって、横に寝かせてある鉄を立ててから指を通す必要がある。

【0004】頻繁に鉄を使用したり置いたりしなければならぬ裁縫作業では、横に寝かせた鉄を一度立ててから指を通すことは作業が煩雑となる。鉄が立てた状態で置かれていれば、即座に指を指掛環に通すことができるので作業の能率が上がるのである。そこで、本発明は、鉄を使用した後にその鉄を横にした状態で立てて置くことができる鉄を提供することを目的とする。

【0005】さらには、布等を切断するときは作業台等の載置面と鉄の指掛環の外側面が接触したままで鉄が前方へ進んで行くので、鉄を立てて置くための支持部と載置面との摩擦抵抗が大きいと鉄の前進が阻害され作業の能率が下がる。そこで、本発明は布等の切断中に鉄が円滑に前進することができることも目的とする。

【0006】

【課題を解決するための手段】本発明の構成は、2つの鉄身1，2が支軸3を中心に回動自在に結合されている鉄であって、一方の鉄身1のハンドル9には親指以外の指を挿入するための第一指掛環4が設けられ、他方の鉄身2のハンドル10には親指を挿入するための第二指掛環5が設けられており、鉄を横にして、第一指掛環4が第二指掛環5の下側にある状態で鉄を立てて置くことができるように、刃部6のミネ7と協働して鉄を立てた状態に支持する支持部8が前記一方の鉄身1のハンドル9の外側面に設けられていることを特徴とする。

【0007】また、請求項2記載の発明の構成は、前述した本発明の構成に加えて更に、鉄が立てた状態で置かれている作業台等の載置面に接触する支持部8の表面にフッ素樹脂が存在している。

【0008】

【発明の効果】本発明は以上のような構成であって、鉄を横にして、第一指掛環4が第二指掛環5の下側にある状態で鉄を立てて置くことができるように、刃部6のミネ7と協働して鉄を立てた状態に支持する支持部8が前記一方の鉄身1のハンドル9の外側面に一体に設けられていることを特徴としている。したがって、裁縫で布等を切断する場合に、布を切断した後、一時的に鉄を作業台等の載置面に置き再び鉄を使用するときに、鉄を動かすことなく指を鉄の指掛環に挿入することができるので裁縫作業の能率を上げることができる。

【0009】また、最近の鉄は、鉄の握り心地を良くするために指掛環に表面をエラストマー樹脂のような柔軟で摩擦抵抗の大きな樹脂で覆ったものが多い。したがって、このような鉄であると、使用中に鉄を前進させる際に、指掛環を覆う摩擦抵抗の大きな樹脂と作業台等の載置面との摩擦抵抗が大きくなるので、鉄の前進を円滑に行うことができない。本発明は、鉄が立てた状態で置かれている作業台等の載置面に接触する支持部8の表面にフッ素樹脂が存在しているので、作業台等の載置面と支持部8の摩擦抵抗が非常に小さくなり、布の切断中に鉄を前方に円滑に移動することができる。

【0010】

【発明の実施の形態】次に本発明の実施の形態を図面に従って説明する。2つの鉄身1，2は、それぞれ刃部6，11の基部が合成樹脂製のハンドル10，9の前端部に埋め込まれる形で刃部6，11とハンドル10，9が固着されたものである。各ハンドル9，10は熱可塑性樹脂から成る剛性の芯材12の表面に、弾性のある合成樹脂から成る被覆層13を設けたものである。熱可塑性樹脂としては、例えばポリエチレン、ポリスチレン、ポリプロピレンやアクリル酸系樹脂等が用いられる。また、弾性のある合成樹脂としては、例えばエラストマー等が用いられる。

【0011】一方の鉄身1のハンドル9には親指以外の

指を挿入するための第一指掛環 4 が設けられている。図 1 に示すように鋏を横にして、第一指掛環 4 が指掛環 5 の下側にある状態にしたときは、刃部のミネ 7 が作業台等の載置面に接すると共に、ハンドル 9 の外側面も載置面に接することとなり、この接する外側面が支持部 8 を形成する。支持部 8 は、図 1 に示すように第一指掛環 4 の外側部に膨出部 14 を第一指掛環 4 の先部から中央付近にかけて設けることによって形成し、図 2 及び図 3 に示すように支持部 8 は平面状に形成され、刃部のミネ 7 と支持部 8 が作業台等の載置面上に同時に接することが 10 できるように、ミネ 7 と支持部 8 とは鋏の長さ方向のほぼ一直線上に沿って存在している。

【0012】支持部 8 は、前述したように平面状に形成されたものに限定されることなく、例えば支持部 8 の中央の長さ方向に凹部を設けることによって、支持部 8 は左右二本の細長い凸部等であっても差し支えないことは勿論である。あるいは、支持部 8 は一対の半球状の突起であってもよい。また、図 4 に示したように支持部 8 を第一指掛環 4 の後方部分に設けてもよいし、図 5 に示したように支持部 8 はほぼ円形の平面に形成したものであ 20 っても差し支えない。

【0013】第一指掛環 4 はポリスチレンから成る剛性の芯材 12 の表面に、弾性のあるエラストマーから成る被覆層 13 を設けたものである。製造方法は、最初に芯材 12 を射出成型によって形成し、その後に被覆層 13 を射出成型によって形成する二度成型の方法によって製造できる。

【0014】第一指掛環 4 は外面のすべてが被覆層 13 で覆われているのではなく、支持部 8 は芯材 12 が露出 30 している。これは、作業中に鋏を作業台の載置面にのせながら移動させるときに、載置面と接する支持部 8 の表面がエラストマーのような摩擦抵抗の大きな物質であると、鋏の移動が円滑に行えないからである。さらに、この芯材 12 が露出した支持部 8 は被覆層 13 の表面よりも外方に突き出ている。これは、支持部 8 の表面と被覆

層 13 の表面が同じ平面であると、被覆層 13 が載置面に接するので、支持部 8 が露出している被覆層 13 によって載置面との摩擦抵抗が大きくなって鋏の移動が円滑に行えないからである。芯材 12 が露出した支持部 8 は被覆層 13 の表面よりも外方に突き出ていると、被覆層 13 は載置面に接しないので円滑に鋏を移動できる。

【0015】さらに、鋏の移動を円滑にするために支持部 8 の表面にフッ素樹脂の皮膜が設けられている。フッ素樹脂は摩擦抵抗が非常に小さいので鋏の移動を更に円滑にすることができる。フッ素樹脂の皮膜を設ける代わりに、芯材 12 にフッ素樹脂を混入してもよい。この場合は、皮膜と異なりフッ素樹脂が摩擦によって芯材 12 からこすり取られることがないので、フッ素樹脂の円滑効果が消滅することがないという効果を奏する。

【0016】他方の鋏身 2 のハンドル 10 には親指を挿入するための第二指掛環 5 が設けられている。このハンドル 10 はポリスチレンから成る剛性の芯材 12 の表面に、弾性のあるエラストマーから成る被覆層 13 を設けたものである。鋏身 1 と鋏身 2 は支軸 3 により回動可能に結合されている。

【図面の簡単な説明】

【図 1】 本発明の正面図

【図 2】 ハンドルの支持部を示すハンドルの一部外側面図

【図 3】 図 1 における A-A 断面図

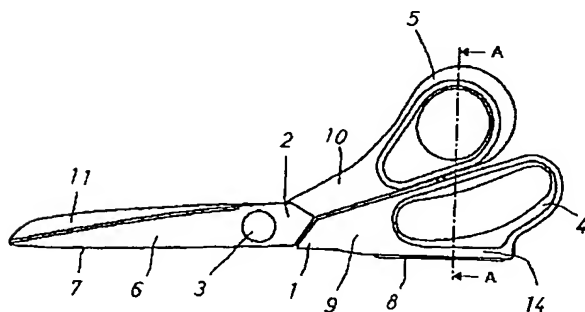
【図 4】 本発明の他の実施例の正面図

【図 5】 図 4 のハンドルの支持部を示すハンドルの一部外側面図

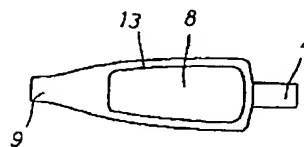
【符号の説明】

1 鋏身 2 鋏身 3 支軸 4 第一指掛環
5 第二指掛環
6 刃部 7 ミネ 8 支持部 9 ハンドル
10 ハンドル
11 刃部 12 芯材 13 被覆層 14 膨出部

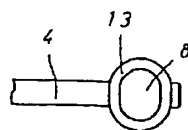
【図 1】



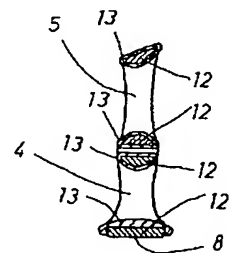
【図 2】



【図 5】



【図 3】



(4)

特開平 1 1 - 3 4 7 2 6 3

【図 4】

